

地区とのタウンミーティング 議事概要

日 時	令和6年11月22日（金）午後7時00分～午後8時00分
地 区	青山地区
場 所	青山集会所
参加人数	11人

テーマ1 交野市域バス路線の廃止に伴う交野市の対応計画について

主 旨

- 青山地区はもともとバスの本数も少なく、以前から交通に対する危機感を持っている。今回の京阪バス路線の廃止を受け、バスに代わる交通手段について市で考えていることを教えていただきたい。

市 長

- 昨年度のタウンミーティングでは、京阪バスの増便や経路変更ができないかという質問を受け、京阪バスが実際に走っている状況では対応できない旨を回答していた。
- 京阪バスとは路線の維持について協議をするとともに支援金も支払ってきたが、今回、令和7年3月22日で市単独路線は廃止すると通告を受けた。社長に再考を求めたが、運転手不足を理由に断られたところである。本件について、市の議会だよりや府議の府政報告ビラ等で記載があったが、事実と異なる内容も含まれており、特に公共交通計画の有無で路線廃止の判断が変わる可能性のあるものではない。
- 寺と神宮寺については、過去から交通支援策として市が京都京阪から運転手の派遣を受け、ワゴン車を運行してきた。現在は森南と東倉治にも停留所を増設して運行しているところだが、一周当たり26分なので、1時間のうち残り34分でどこが回れるかを検討したところ、天野川よりも北東側の北部路線すべてはカバーできないものの、8停留所はカバーできるという結論になった。
- 停留所については、変更しようとする警察との協議など色々な手続きが必要になり、京阪バスの撤退までに間に合わないため、現在のバス停をそのまま活用する。令和8年度には、地域の意見等も聞きながら、停留所の変更も検討する予定である。路線については、道路事情等で遅延した場合でも1時間1本を守るためには、この路線が現時点での最善であると考えている。河内磐船から交野市へ行くルートについては、別途走らせる予定の南部バス路線や直Qバス等を利用してもらうことになる。
- 車両は寺・神宮寺を走っているワゴン車を継続して使用するが、別途、イラストでラッピングして目立つようにする予定である。
- 料金については、電子マネーの導入を検討しているが、運行開始時には間に合わないため、当初は200円、障がい者や子どもについては100円とする予定である。高齢者の外出支援も継続するので、4,600円分の支援を活用することもできる。
- これらの施策は、11月27日の公共交通会議で審議し、承認されれば運行事業者と契約を結ぶことになる。一連の取組に必要な費用は年間2億円以上であるのに対し、乗車賃や国交省からの補助金による収入は年間1,000万円を見込んでいるため、赤字になるのは織り込み済みだが、あまりにそ

の赤字額が大きいと事業存続が難しくなる。電子マネーが導入されれば、どの停留所がよく使われているか、あるいは使われていないかが明確になるため、利用されていないバス停は廃止せざるを得ない状況にもなりかねない。積極的に活用して、赤字の縮小に協力してほしい。

- なお、公共交通対策の一環として、オンデマンド交通の取組もあるが、運転手不足等で交野市には対応できる事業者がない。費用もかかり、タクシーの台数も確保できないうえ、時間帯によっては60人以上が乗車する路線もあるため、そもそもタクシー車両では間に合わないなどの理由から、導入は困難である。

意見

- ワゴン車の継続のために、乗車率がどれほどあれば採算が取れるかというシミュレーションはしているのか。
→ [市長] ワゴン車の乗車定員は9名となっており、毎時満員になったとしても赤字は免れないので、後はどれだけそれを縮小できるかという話である。常時1人しか乗車していないような状況であれば廃止せざるを得ないと考えている。
- 今までも公共交通に関しては話をしてきたが、こうして整備していただいてありがたい。バス運転手については二種免許が必須とされているが、もう現行法が現状に合わなくなってきている。例えば二種免許はなくても別途必要な資格を持った人が運転できるような仕組みがあればいいと思う。バス停まで行けない人でも個々人が外出できるように、国が変えていかなければならないと考えている。
→ [市長] 現行法では、運賃を徴収して走らせる場合は二種免許が必要とされており、規制が厳しい。交野市は特例で一種免許でも運行できるようになったが、これを普通免許でも良いとしてしまうと、安全性との釣り合いが取れなくなる。個人がタクシー会社の傘下に入って誰でもタクシーを運行できるようにする制度もあるが、交野市では対応できる事業者もおらず、導入はできない。現状においては、まずは一種免許までの規制緩和に留め、そこから先は国の判断に任せる。
- 車両にはラッピングが施されるとの話があったが、誰が見ても一目で市の巡回ワゴン車だとわかるような見た目にしてほしい。また、広く市民に周知してほしい。
→ [市長] 大きなおりひめちゃんのイラストを掲げたバスやワゴン車を走らせる予定である。

テーマ2 市長が考える交野市の未来像について

主旨

- 青山には交野市に愛着のある住民が多く、より良くなって欲しいと思っている。「都会の中の田舎」という特色を活かし、もっと交野のイメージを他市の人に伝えられるようなまちづくりをしてもらいたいと思っている。市長の交野市の未来像についてお聞かせ願いたい。

市長

- 環境の良い住宅都市という良さを残しながら、より魅力的なまちにしていきたいと考えている。交野市は個人所得が比較的多いため市民税収入が多いが、法人税収入は少ない。この傾向から、企業

誘致に注力するより転入者数を増やしていく方が良いと考えている。現在も転入者数と転出者数を比較すると転入超過だが、年間の死亡者数が800人程度、出生数が300人程度となっており、その差を転入超過分で相殺しているような状況である。ただ、高齢者は転出が少し多いため、住み続けられるまちづくり、特に外出支援には力を入れていきたい。

- 農地を残したいという気持ちはあるものの、高齢化等により耕作者が減少しており、耕作放棄地も増加してきている状況では、現実問題としてなかなか厳しい。
- 近隣市に比べて交野市の子どもたちの学力水準は高いが、北摂には及ばない。本市の特徴として、小学校の間は家庭学習等の時間が少ないが、中学校に入学すると伸びていくという傾向がある。令和7年度からは基礎学力の向上に取り組む予定である。また、今年度に全小中学校の机と椅子を新しいものに入れ替えたが、その他の環境整備も順次実施していきたい。給食費無償化の拡大や、材料費高騰分の市負担等についても検討していく。
- 今後も計画的に自然は残しながら、環境の良い住宅都市を維持するため、住宅を中心としたまちづくりをしていきたい。

意見

- 市の発展のためには、国や府の施設などを誘致することが効果的ではないかと考えている。文化芸術都市のような方向性のまちづくりは検討できないか。また、現存農地を農業公園として活用する、私市植物園の隣に天王寺動物園を誘致するなどの案も考えられるのではないかと考えているが、市長の10年以上先を見据えたまちづくりのビジョンを聞かせてもらいたい。

→〔市長〕大阪府にまちづくりの連携を提案すると、重い条件を付けられることが多く、むしろ市費の支出が嵩む結果になりかねないため、検討する予定はない。現在は、国の制度を活用できる部分大きい防災面に注力しているところである。今後も引き続き、国の制度で効果的なものを活用し、市の負担軽減に努めていく。また、文化芸術都市について、学研都市線は良い路線だと思うが、沿線の大学はすべて廃校となってしまった。大学生に人気が無いため、その方面でまちづくりを進めていくのは難しい。

交野市の農家は自分で消費する分を作る自給的生産農家が大半であり、他市のように農業公園や道の駅のような販売関係の施策を実施するのは難しい。

植物園は大阪公立大学の研究機関なので、他目的の活用は認めないと大学から通知されている。地権者も地元の住人であり、第三者である市が口出しすることはできない。

以上